

温泉保護利用懇談会の中間報告に向けて (課題に関する議論メモ)

1 . 温泉の保護と利用をめぐる状況、主な問題点

(1) 温泉と温泉利用をめぐる状況

温泉 (源泉、ゆう出量など) の状況

- ・ 全国の源泉数は増加してきたが、自噴泉は横ばい、動力泉が増加。
- ・ ゆう出量は、動力揚湯に支えられ増加してきたが、最近では頭打ち。
- ・ その他、掘削技術の進歩等で掘削深度が深部化。一部で温泉源の枯渇も問題化。

温泉利用 (利用施設、利用者数など) の状況

- ・ この 20 年ほど、全国の温泉利用宿泊施設数は横ばいで、宿泊定員の規模は拡大 (施設の大型化)。宿泊利用者は、ここ 10 年ほど頭打ち。
- ・ この間も、日帰り温泉施設の充実等で、日帰り利用者が増加。

温泉利用者・国民の視点から見て

- ・ 国民の宿泊観光は、慰安旅行から周遊旅行等へ、団体旅行から友人・家族旅行へと変化。近年では温泉目的の旅行が増加。国民の温泉志向は根強い。
- ・ 国民の温泉志向は、日帰り温泉利用の増加にも反映。一方で、温泉らしい温泉 (温泉そのもの・温泉情緒・自然環境) への希望も強い。
- ・ 本物や健康志向のなか、レジオネラ肺炎事件等で衛生管理への不安、循環利用への不信。

温泉事業者・温泉地の視点から見て

- ・ 団体旅行対応等で宿泊施設を大型化したか、宿泊客は増加せず、利用率低下。
- ・ 資源制約のなか施設大型化のため循環ろ過方式を導入したが、衛生問題で不評。
- ・ 大型化を目指した温泉地がある一方、個性ある温泉地づくりや昔ながらの湯治場への人気は上昇。温泉地の明暗が拡大。
- ・ 深刻化する温泉資源の制約、枯渇問題の不安。

(2) 主な問題点と課題

- 1) 温泉ブーム・温泉開発進展により、温泉資源の制約が顕在化
温泉を持続的に利用できるように、温泉源の保護を進める必要
- 2) 温泉利用の増加、循環利用等により、温泉の質や衛生面での国民の不安、不信
国民の安全・安心を高めるよう、利用施設の衛生管理と情報提供を進める必要
- 3) 利用施設の増と国民利用の多様化により、温泉地の明暗拡大など
温泉地の創意工夫を促し、魅力ある温泉利用の場づくりを進める必要

2. 対応の方向

1) 温泉源の保護 ~ 温泉を持続的に利用するために

温泉は地球の恵み、限りある資源。国民の保健休養、地域興し・観光資源といった多様な公益的利用を持続的に可能とする温泉資源の保護管理が必要。

温泉法の各種許可制度等について、その運用実態、温泉源保護の効果、問題点・改善点を調査検討することが必要。

* 例えば、温泉の掘削・汲上げの量的な制限や利用配分の制御ができないか、一連の許可制（掘削、増掘・動力、利用）を関連づけられないか、増加しつつある未利用源泉の発生を抑制できないか 等

当面、行政による温泉現況の把握や未利用源泉の整理を進めること、大深度掘削について温泉事業者による過剰揚湯の回避に配慮を求めることも重要。

2) 温泉利用施設の管理・情報提供 ~ 温泉を安全に安心して利用するために

温泉事業者の取組が基本的に重要であり、

）温泉利用施設の衛生管理は、厚労省のレジオネラ対策指針を踏まえ、温泉の特質を考慮した対策を進めるべき。

）温泉利用者（消費者）への正確な情報提供に努めるべき。温泉協会の新看板制度等は、一層の普及拡大と表示方法の改良が望まれる。

温泉利用者たる国民にも、温泉資源保護への理解（循環ろ過と「かけ流し」のバランスある評価）や、温泉入浴マナーの向上への協力を求めたい。

温泉法に関しても、温泉情報提供に有効な成分揭示の適正化（分析の場所と期限）のほか、適正利用の見地から揭示項目や利用基準（浴用、飲用）の見直しが必要。

3) 温泉地の創意による取組の促進 ~ 魅力ある温泉利用の場づくりのために

温泉への国民ニーズの多様化に対応し、個性的で魅力ある温泉地の形成が重要。

湯量（温泉資源）とともに個性ある泉質の保持、特有の温泉情緒や自然環境の保護、環境教育的アプローチの取組みも肝要。

国民保養温泉地制度は、今日的な国民ニーズに照らし各温泉地の主体的な取組を促すものとなるように、今後のあり方の検討が必要。